

小中学校のあり方意見交換会 議事録
(加須東・加須平成中学校区)

令和6年1月15日 15:00～16:50
パストラルかぞ (展示室)

参加者

幼稚園評議員及び小中学校評議員 18名

教育長・教育委員

小野田教育長、遠藤委員、猪股委員、秋山委員、松永委員

校長・園長

隈元大桑小学校長・大桑幼稚園長、酒巻水深小学校長・水深幼稚園長、
藤井花崎北小学校長、佐藤花崎北幼稚園長、
中島加須東中学校長、渡邊加須平成中学校長

事務局

斉藤生涯学習部長、中島学校教育部長、野本こども局長、高貫教育総務課長、清水学校教育課長、関口こども保育課長、岡田教育総務課主幹、野本学校教育課主幹兼指導主事、瀬高学校教育課主幹兼指導主事、澁谷学校教育課主幹兼指導主事、荒木こども保育課主幹兼指導主事、杉田教育専門員、折原教育総務課主査

意見交換

学校ごとにグループで話し合いを実施(校長同席、教育委員会職員も会話に参加)

会議資料

別添資料のとおり

幼稚園・小中学校評議員からの主な意見（学校ごと）

【大桑幼稚園・大桑小学校】

- 小中学校は避難場所としての役割もあるため、なくすのは難しい。
- まずは現在の学区を見直すべきである。現状では、学校までの距離がまちまちになっており、近くの学校に通えない現状がある。
- この地域においては、小中一貫校は厳しいように思う。
- 加須市全体を考えるととても広く、なかなか難しい。少子化の流れが凄まじい。
- 人間関係やクラス替え、担任などを考えると単学級よりも複数学級のほうがよい。
- 子どもの目線を大事にしながら決定してほしい。

【水深幼稚園・水深小学校】

- 統廃合の前に、学区の見直しが急務である。下高柳地区は上中下のうち、上と中、常泉地区は南小学校へ通学してもいいのではないか。地域性というのは、別途大人の社会の中で考えればよい。
- 水深地域にも、宅地開発されている地域と農業地域があり、その差が非常に顕著である。通学距離もありスクールバスを運行してほしい。学校の選択制を考えてもいいのではないか。
- 学年単学級は望ましくない。子ども同士が互いに切磋琢磨する状況が望ましい。人間関係の固定化はよくない。

【花崎北幼稚園】

- 東部地区は子どもたちの大きな減少はないため、急は要さない。
- クラス替えができる子どもの人数が望ましい。
- 統合はやむを得ないが、子どもの通学距離が長くなることで保護者の送迎が考えられるため、駐車場を確保する必要がある。
- 保護者の仕事の関係もあるので、統廃合の際は、学校選択制を認めていくことも大切なのではないか。

【花崎北小学校】

- 学年の学級数は複数が望ましい。
- 大利根地域については、統廃合が望ましいと思われる。

【加須東中学校】

- 他課と協力して開発状況を加味した予測が必要。
- 水深小学校の生徒で、仮に加須南小学校に移ることになる子どもは、中学校の通学も考えるべきである。
- 学校選択制も考えるべきである。

【加須平成中学校】

- 人口減少時代は避けられないので、人口減少を前提に計画すべき。人口が南部に偏りがあるため、平均化するには行政のコントロールが必要。
- 学校の再編については、歴史や地域事情を考えて実施すべきである。
- 子どもたちの安全確保のため、スクールバスの運行も考えてほしい。
- 学年については、クラス替えができる程度が望ましい。ある程度の刺激が必要である。
- 先生方が働きやすいクラスの人数も考えるべき。

幼稚園・小中学校評議員からの質問等

【水深小学校】

複式学級の児童を学年ごとに分けて授業を行うために、市で雇っている先生の経費についても明らかにしてほしい。